大阪大学 サイバーメディアセンター

GPU再チャレンジ支援プログラム申請書

年　　　月　　　日

※本様式は、サイバーメディアセンター 大規模計算機システム担当system@cmc.osaka-u.ac.jpまでお送りください。

|  |  |
| --- | --- |
| **所属** |  |
| **氏名** |  | **職名** |  |
| **E-mailアドレス** |  |
| **指導教員** | (申請者が学部生、大学院生の場合に記入)氏名：　　　　　　　　　E-mailアドレス： |
| **利用者番号** |  |

|  |
| --- |
| 1. **プログラムの状況確認**

GPU再チャレンジ対象のプログラムの状況について回答してください。 |
| □GPUで実行可能　　□GPU移植途中　　□CPUノードで実行中　　□ベクトルノードで実行中備考：( 　　　　　 ) |

|  |
| --- |
| 1. **ソースファイル一式のパス**

プログラムの実行に必要となるソースファイル一式（入力ファイル等も含む）のパスを記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **ジョブスクリプトのパス**

プログラムの実行に利用しているジョブスクリプトのパスを記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **コンパイル方法**

コンパイルコマンド、コンパイルオプションなど具体的な手順、コマンドを記述してください。Makefileを利用している場合はそのパスを記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **実行方法**

ジョブスクリプトの投入（qsub）以外に、プログラム実行に必要な手順がある場合は記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **作業の方針**

GPU再チャレンジで希望する作業内容を回答してください。 |
| □GPU上で実行したい | □GPUで実効性能向上 | □GPUで並列性能向上 |

|  |
| --- |
| 1. **実行の規模**

現状のプログラムの実行規模（並列ノード数、メモリ使用量、実行時間など）を記述してください。 |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **実行結果の確認方法**

チューニングによってプログラムの実行結果に誤りが発生してしまうことを防ぐため、結果が正しいことを確認する方法をお知らせください。結果の確認に比較が必要な場合は実行結果のサンプルをご用意いただき、そのパスを記述してください。　例）標準出力ファイルの変数xの値がXXであれば正しい　　　出力ファイルsample.datのYY行目が、実行結果のサンプルとZZ桁程度まで一致していれば問題ない |
|  |

|  |
| --- |
| 1. **実行の規模を下げる方法**

チューニング作業でのテスト実行の時間短縮のため、本来のプログラム実行の挙動と差が出る（コストの大きいサブルーチンを通らなくなるなど）ことなく、実行を小規模化、短時間化する方法を記述してください。　例）sample.cのXX行目の変数xの値を小さくしてステップ数を減らす　　　入力ファイルsample.inのパラメータyの値を小さくして格子数を減らす |
|  |